

賛助会
技術講座

地盤情報配信サービス『地盤情報ナビ』

<http://www.geonavi.net/georisknavi2/>

中央開発株式会社 東京支社 営業部 吉田 知史



「地盤情報ナビ」は、2008年のサービス開始以降着実に進化を遂げ、現在はボーリングデータ数約31万本と無料の地盤情報閲覧サイトでは日本一のデータ数を誇るサイトにまで成長しました。また液状化ハザードマップや土砂災害危険度マップなどの被害想定地図や土地条件図、過去の空中写真、都市圏活断層図など重ね合わせる地図コンテンツも着実に増やし、4,000を超える会員のお客様から月間80,000PVのご利用をいただいています。主なお客様はゼネコン、設計会社、官公庁、調査会社、不動産会社、大学関係者が多く増えておりますが、一般の方で会員になられている方も多数いらっしゃいます。

この度、昨年より準備を進めてまいりました「地盤リスク情報機能」と「地盤調査概算見積機能」の実装が完了しましたので、その概要を紹介させていただきます。皆様にも機能をご利用頂き、今後の開発の参考になりますご意見を頂ければ幸いです。

【地盤リスク情報】

地盤リスク情報機能は、お客様がWeb-GIS上で任意の場所をクリックすることで、その場所の【地震リスク】【液状化リスク】【浸水リスク】を表示する機能です。

【地震リスク】：防災科学技術研究所が開設している「地震ハザードステーション(<https://www.j-shis.bosai.go.jp/>)」の情報から地震の発生する確率及び想定される計測震度の情報を取得し、提供しています。

【液状化リスク】：国土交通省が公表している「地形区分に基づく液状化発生傾向図(https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_tobou_tk_000038.html)」から地形区分による液状化の可能性についての情報を提供しています。

【浸水リスク】：国土交通省が公表している「地点別浸水シミュレーション検索システム(<http://suiboumap.gsi.go.jp/>)」より情報を取得し提供しています。

その他、地盤情報として、地震ハザードステーションから微地形区分、表層30mの平均S波速度、揺れやすさ(最大速度増幅率)の情報を提供しています。

地盤リスク情報は、各省庁が出しているリスク情報のなかで、地盤に関わるものを抽出しています。これらのデータはメッシュごとに情報を持っているので、任意のどの地点においても情報を提供することができます。

地盤リスク情報

住所：169-0051東京都新宿区西早稲田3丁目13-5中央開発ビル
緯度：35.710 N, 経度：139.714 E

微地形区分名：火山灰台地
表層30mの平均S波速度：279.5 (m/s)
揺れやすさ(最大速度増幅率)：やや低め(1.36)
(出典：地震ハザードステーション)

近隣ボーリングデータ：TKO_2015_13695(距離:109.16m, 掘進長:15.21m)

【地震リスク】
30年間で震度5弱以上となる確率：99.88%
30年間で震度6弱以上となる確率：44.04%
50年間で超過確率39%(再観測期間約100年に相当)となる計測震度：5.6
30年間で超過確率3%(再観測期間約1,000年に相当)となる計測震度：6.1
(出典：地震ハザードステーション)

【液状化リスク】
液状化危険度：低減無し
(出典：地形区分に基づく液状化の発生傾向図(国土交通省))

【浸水リスク】
洪水による最大浸水深：undefinedm
(出典：地点別浸水シミュレーション検索システム(国土交通省))

【地盤調査に掛かる概算費用】
近隣のボーリングデータを参考に一般的な地盤調査に必要な概算費用を算出します。(無料、埼玉・千葉・東京・神奈川限定、会員限定)

閉じる
再選択
地盤調査概算費用
印刷

地盤リスク情報の表示例

【地盤調査概算見積機能】

地盤調査概算見積機能は、弊社の営業DXの一環として、同業他社も含め市場に今までなかったサービスです。お客様が任意に指定した地点に対して、地盤調査に掛かる